

インフルエンザワクチン接種について



予防接種を受けることができない人

- 明らかに発熱している人（37.5℃を超える人）
- 重大な急性疾患にかかっている人
- 各種ワクチン接種で異常をきたしたことがある人
- 4週間以内に生ワクチン、1週間以内に不活化ワクチンの接種を受けている人
- 妊婦または妊娠の可能性がある人
- その他医師が予防接種を受けることが不適切と判断した人

予防接種を受けるにあたって医師への相談が必要な人

- 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気、肺の病気のある人
- 発育が遅く、医師や保健師の指導を受けている人
- 風邪のひきはじめと思われる人
- 予防接種を受けたときに、発熱や発しんを生じたことのある人
- 薬や食事（特に鶏卵や鶏肉）で発しんが出たり、体調不良になったことのある人
- けいれん、ひきつけを起こしたことのある人
- 本人や近親者が免疫の異常を指摘されたことのある人

ワクチンの効果と副反応

インフルエンザワクチンの目的は、インフルエンザ感染をある程度予防すること、かかったときの症状を軽くすること、かかったときの合併症（脳炎、肺炎など）や死亡を減らすことなどです。

副反応（いわゆる副作用）は、注射部位の発赤、腫れ、熱感、痛み、全身的な発熱、悪寒、頭痛、だるさ、眠気、一過性の意識消失、めまい、嘔吐、下痢、食欲減退、関節痛、筋肉痛、リンパ節腫脹などがありますが、通常は数日で改善します。

まれですが、次のような重大な副反応が起こることがあります。

ショック症状、急性散在性脳脊髄炎、脳炎、脳症、脊髄炎、視神経炎、ギランバレー症候群、けいれん、肝機能障害、喘息発作、血小板減少、血管炎、間質性肺炎、皮膚粘膜眼症候群、ネフローゼ症候群。

万が一健康被害が生じた場合、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行います。

予防接種を受けた後の注意

インフルエンザワクチンを受けたあと30分間は、急な副反応が起きることがあるので、様子を観察し、病院と連絡をとれるようにしておきましょう。

接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう。

接種当日は、接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

万が一、高熱やけいれん等の異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。